

NSK

日本精工株式会社

2025年3月期
1Q決算説明会



Change & Go Beyond

2024年7月30日

本資料には、業績見通し及び事業計画等を記載しています。
それらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などの
一定の前提に基づいて作成しています。従って、実際の業績は、様々な要因により
業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

鈴木です。本日はお忙しいところ、当社の2025年3月期第1四半期の決算説明会にご参加
いただきありがとうございます。

✓ FY24 1Qの販売動向は想定線

産業機械事業：需要低迷継続も後半に向けて受注回復の兆し。
自動車事業：自動車生産台数は対前年横ばいも日系メーカー減産。
為替はUSドル、ユーロ、中国元いずれに対しても想定以上に円安が進行。

(継続事業)	» 売上高	2,005億円	YoY +6.5%
	» 営業利益	59億円	YoY +42.2%
	» 営業利益率	2.9%	

✓ FY24業績予想は5月の公表値を据え置き

» 売上高	8,200億円	YoY +3.9%
» 営業利益	360億円	YoY +31.4%
» 営業利益率	4.4%	

✓ 構造改革および組織再編の取り組みを推進

こちらは、FY24第1四半期決算のポイントになります。

この第1四半期は、販売動向を含めて想定線での運営ができたと認識しています。産業機械事業につきましては、需要水準は決して高くありませんが、想定範囲内だったと見ています。また、後半に向けて受注回復の兆しも見えてきています。一方、自動車につきましては、グローバル生産台数は対前年で横ばいですが、中国は増産、日本や欧州は減産となりました。また、日系メーカーにおける認証不正の問題や、中国での販売不振など計画に対し内訳は変わってきていると認識しています。為替につきましては円安が進行しました。このような状況下、当社の第1四半期の決算は、売上高2,005億円、営業利益59億円、率で2.9%と、対前年同期で増収増益となりました。基本的な運営は、想定していたとおりできており、後半に向けての受注状況も鑑み、5月に公表しました今期の業績予想は変更していません。売上高8,200億円、営業利益360億円、率で4.4%ということです。また、期初に構造改革等々についてのお話もさせていただきましたが、その進捗についても後ほどご説明させていただきます。

FY24 1Q実績サマリー

- ✓ FY24 1Q実績は前年同期比で増収増益。売価転嫁、原価低減に加えて一段の円安進行。
- ✓ 計画に対しては想定どおりの進捗。

(億円)	1Q実績		YoY		(為替影響)	
	FY23	FY24	増減額	増減率		
継続事業	売上高	1,882	2,005	+122	+6.5%	(+128)
	セグメント利益※ (対売上高率)	38 (2.0%)	63 (3.2%)	+25	+66.1%	(+28)
	営業利益 (営業利益率)	41 (2.2%)	59 (2.9%)	+17	+42.2%	(+21)
	税引前利益	43	52	+9	+20.5%	
	当期利益 (親会社所有者帰属)	17	19	+3	+17.4%	
継続事業 + 非継続事業	当期利益 (親会社所有者帰属)	-9	19	+28	—	
	換算レート1USD	137.4	155.9	+18.5	+13.5%	
	” 1EUR	149.5	167.9	+18.4	+12.3%	
	” 1CNY	19.6	21.5	+1.9	+9.8%	

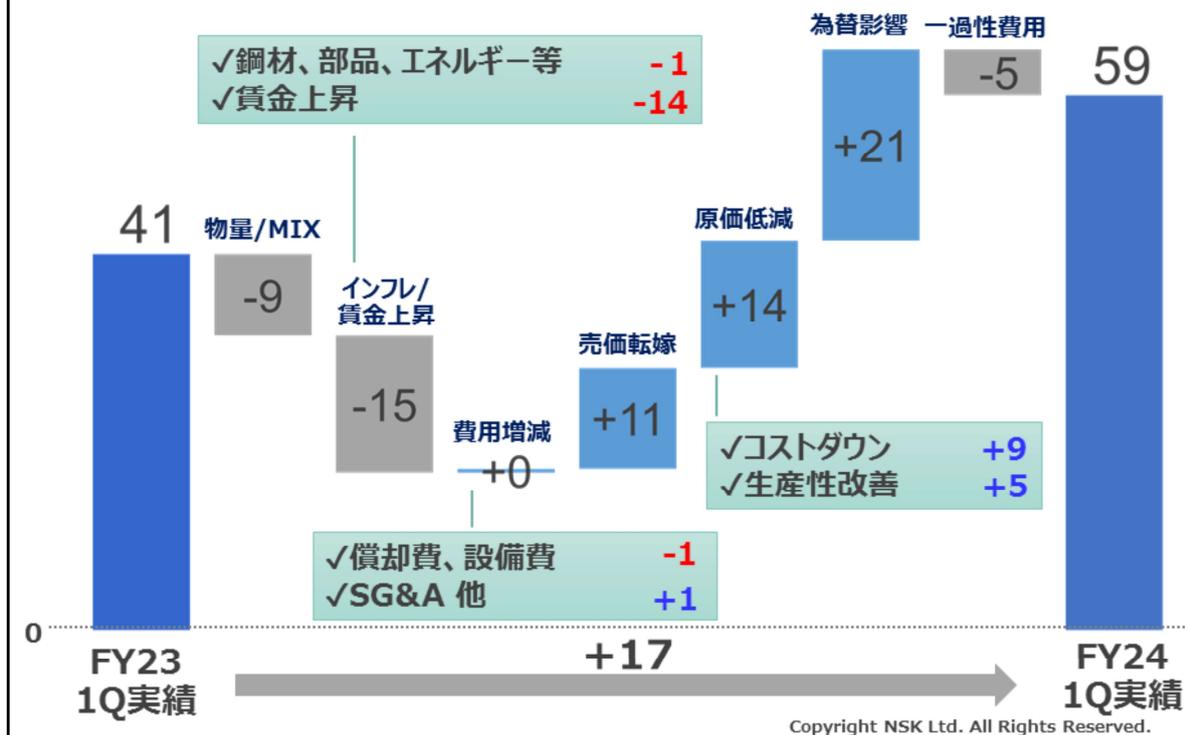
※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

第1四半期のサマリーになります。売上高2,005億円、営業利益59億円、営業利益率2.9%、当期利益が19億円で、増収増益となりました。ただし、為替の影響が数表の右端に書いてありますが、売上高では128億円程度あり、値上げもありましたので、実質ベースは減収と見ています。しかしながら、計画に対しては想定どおりとなっています。為替レートについてはドル、ユーロ、人民元ともに前年同期に比べて大きく円安が進みました。

営業利益 増減内訳 FY23 1Q実績 ⇒ FY24 1Q実績

(継続事業)

MOTION & CONTROL
NSK
(億円)



営業利益の増減について、ご説明します。

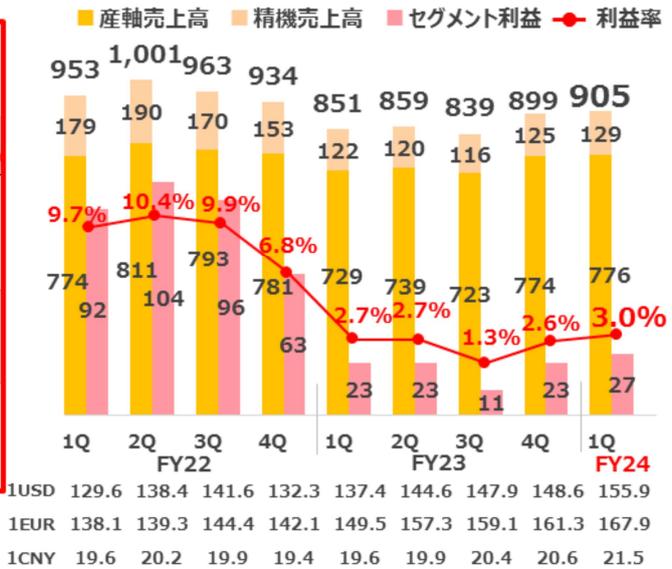
左側に前年FY23第1四半期の営業利益41億円、右端に当期の59億円があり、その増減分析となります。左側から2つ目の物量/MIXは、実質物量が減っているとご説明させていただきましたが、その物量の減による影響が9億円程度減益要因になったと見ています。それに対し、物量の減少に伴う人員体制の見直しや、生産性の改善、コストダウンなどの原価低減を14億円程度効果を出し、物量減少影響をカバーでき、プラスが少し出ています。一方、インフレによるコスト上昇と賃金上昇の影響が15億円の減益要因となりましたが、それに対し売価転嫁が11億円となりました。若干のマイナスとなりますが、損益への影響をほぼ抑えることができたと思っています。為替の円安影響は20億円強あり、一過性の費用、これはエンジン車関係向けの製品の体制について改善を進めている費用として5億円程度かかり、59億円の営業利益になりました。

FY24 1Q実績 -産業機械事業-



(億円)

	1Q実績		YoY	
	FY23	FY24	増減額 (為替影響)	増減率 (為替除く)
売上高	851	905	+55 (+63)	+6.4% (-1.0%)
産業機械軸受	729	776	+47	+6.4%
精機製品	122	129	+8	+6.3%
セグメント利益	23	27	+4	+17.4%
(対売上高率)	(2.7%)	(3.0%)		
換算レト1USD	137.4	155.9	+18.5	+13.5%
" 1EUR	149.5	167.9	+18.4	+12.3%
" 1CNY	19.6	21.5	+1.9	+9.8%



- ✓ FY24 1Q実績 YoY増収増益。為替影響を除いた実質物量は減収。
- ✓ QoQ 為替影響を除いて減収。ただし、BBLレシオは1倍を超える水準へ回復。
 - 産機軸受：鉄道向け堅調。工作機械向けは受注に回復の動き。
 - 精機製品：工作機械向け・半導体製造装置向けで受注は増加傾向。

続きまして事業別に見ていきます。まずは産業機械事業です。

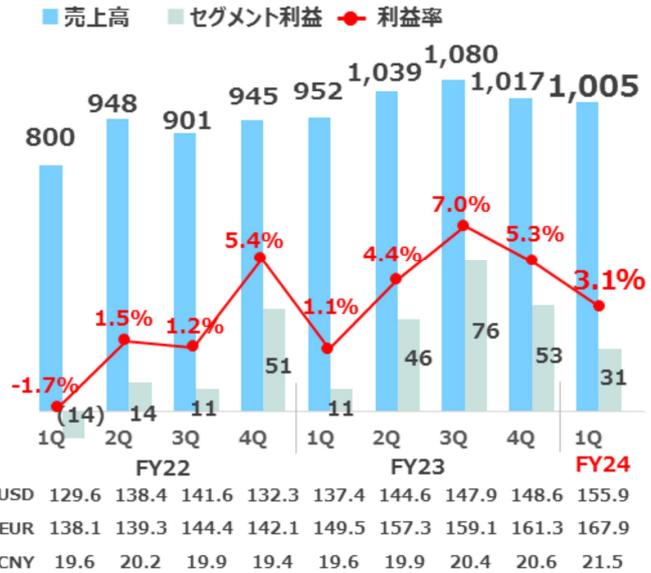
売上高905億円、利益が27億円と対前年同期に比べて増収増益でしたが、為替の影響があり、それを除くと実質物量は減収です。しかしながら、足元ではBBLレシオは1倍を超える水準へ回復しており、例えば軸受においては、この第1四半期の実績の中でも引き続き鉄道向けが堅調に推移しています。また、受注については工作機械向け等に回復の動きが見えています。精機製品につきましても、工作機械向けに加えて半導体製造装置向けでも受注が増える兆しを確認しています。

FY24 1Q実績 -自動車事業-



(億円)

	1Q実績		YoY	
	FY23	FY24	増減額 (為替影響)	増減率 (為替除く)
売上高	952	1,005	+53 (+61)	+5.5% (-0.9%)
セグメント利益	11	31	+20	+183.3%
(対売上高率)	(1.1%)	(3.1%)		
換算レート1USD	137.4	155.9	+18.5	+13.5%
" 1EUR	149.5	167.9	+18.4	+12.3%
" 1CNY	19.6	21.5	+1.9	+9.8%



グローバル自動車生産台数 (IHS)

百万台	FY23	FY24	増減率
1Q	22	22	-0%

	FY22	FY23	FY24
1USD	129.6	138.4	141.6
1EUR	138.1	139.3	144.4
1CNY	19.6	20.2	19.9

✓ FY24 1Q実績 YoY増収増益。為替を除いた実質物量は、日系メーカーの減産影響もありYoYで微減。

✓ QoQ 減収減益。物量減少に加えて一過性要因もあり減益。

売上高について、従来「自動車軸受」および「自動車部品」で区分して開示していましたが、2024年3月期よりステアリング事業を非継続事業へ分類したため、自動車事業のみの開示へ変更しています。なお、2023年8月1日に設立しましたJISとの合併会社における持分法損益はFY23 2Qよりセグメント利益に含めています。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

6

自動車事業は売上高1,005億円、利益が31億円となりました。こちらも増収増益となりましたが為替の影響を除いては、若干の減収となります。グローバルの生産台数は横ばいだったと認識していますが、日系メーカーの減産影響もあり、当社の売上高は微減となりました。そのような状況ではありますが、これまでの売価の値上げを含めた改善活動の結果も現れてきており、ページの右側に業績推移がありますが、トレンドとしては上昇傾向と考えています。ご案内のとおり、FY23の第3四半期や第4四半期には値上げの遡及効果もありましたので、少し利益は高くなっています。また、この第1四半期については一過性要因がありましたが、それらを除きますと、現在進めている改善活動の結果が現れてきていると認識しています。

FY24 通期業績予想

- ✓ 為替や金利動向、地政学リスクなど事業環境の先行きは不透明。
- ✓ 産機受注は増加傾向であり、後半回復前提を維持。業績予想を据え置き。
- ✓ 構造改革（一過性費用50億円予定）を計画通り進めるとともに、売価転嫁と原価低減取組みによる収益改善を推進。

	(億円)	FY23	FY24	YoY	
		通期実績	通期予想	増減額	増減率
継続事業	売上高	7,889	8,200	+311	+3.9%
	セグメント利益※ (対売上高率)	287 (3.6%)	380 (4.6%)	+93	+32.4%
	営業利益 (営業利益率)	274 (3.5%)	360 (4.4%)	+86	+31.4%
	税引前利益	262	335	+73	+27.8%
継続事業 + 非継続事業	当期利益 (親会社所有者帰属)	85	190	+105	+123.5%
	換算レート1USD	144.6	145.0	+0.4	+0.3%
	" 1EUR	156.8	155.0	-1.8	-1.1%
	" 1CNY	20.1	20.0	-0.1	-0.7%

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

このような足元の状況や先行きを含めて、業績予想についてご説明します。

為替や金利の動向、地政学リスクなど事業環境の先行きは不透明と考えています。引き続き慎重に、場合によっては迅速な対応が必要になるという認識のもとで運営をしております。産機の受注は増加傾向となっておりますので、我々としてはそれを確実に取り込んでいくことが重要な活動と考えています。後半回復の前提を維持し、業績予想を据え置きました。また、構造改革についても計画どおり進めるとともに、コスト上昇に対する売価転嫁、加えて原価低減の取組みによって収益の改善を推進していく方針に変更はありません。売上高8,200億円、営業利益360億円、4.4%、当期利益は190億円となっております。

FY24 通期業績予想 -セグメント別-

産業機械事業

- ✓ 客先在庫調整進展、受注は回復傾向
- ✓ 欧州需要低迷と中国回復遅れリスク

セクター別需要動向 (NSK予測)

(億円)	FY23 通期実績	FY24 通期予想	YoY		FY24	
			増減額	増減率	前半予想	後半予想
売上高	3,448	3,780	+332	+9.6%	1,790	1,990
産業機械軸受	2,965	3,200	+235	+7.9%	1,530	1,670
精機製品	483	580	+97	+20.1%	260	320
セグメント利益	80	190	+110	+137.3%	40	150
(対売上高率)	(2.3%)	(5.0%)※			(2.2%)	(7.5%)

※一過性費用を除く 5.8%

		FY24前半 vs FY23後半		FY24後半 vs FY24前半	
産業機械軸受	AM	→	→	↑	↑
	工作	→	→	↑	↑
	半導体	→	→	↑↑	↑↑
	ロボット	→	→	↑	↑
	風力	→	→	↑	↑
E&E	鉄道	→	→	→	→
	電機・情報	→	→	→	→
	自動車	→	→	→	→

自動車事業

- ✓ 生産台数は対前年横ばい
- ✓ 日系メーカーの減産リスク

グローバル自動車生産台数 (百万台, IHS + NSK予測)

(億円)	FY23 通期実績	FY24 通期予想	YoY		FY24	
			増減額	増減率	前半予想	後半予想
売上高	4,088	4,050	-38	-0.9%	1,960	2,090
セグメント利益	186	180	-6	-3.1%	45	135
(対売上高率)	(4.5%)	(4.4%)※			(2.3%)	(6.5%)

※一過性費用を除く 5%

FY23		FY24	
90		90	
前半	後半	前半	後半
45	45	44	46

事業別の業績予想のご説明になります。

ページ上段が産業機械事業です。欧州の需要低迷や中国の回復遅れのリスクを十分認識していますが、一方で客先の在庫調整が進展していること、受注は回復傾向にある状況と認識しています。右側にセクター別の需要動向について記載していますが、ほぼ全てのセクターで後半上がっていくと見ています。例えば工作機械につきましては、5月、6月と続けて日工会の受注状況がプラスになっています。射出成形機向けについても、当社の受注は増えてきています。特に精機製品については、後半に向けての生産増への対応準備も今進めているところです。自動車につきましては、生産台数は、年間でもほぼ横ばいと見ています。もちろん日系メーカーの減産リスクを見極めながらの運営になりますが、後半については前半よりも生産台数が増えていくことを想定していますので、売上高4,050億円、利益180億円は変えないということで進めたいと考えています。

✓ 構造改革の推進

▷ **一過性費用 FY24 50億円を計上予定**
効果 FY26 90億円の増益効果を見込む

1. 欧州の生産子会社の売却合意 2024年7月25日

- ▶ ノイベック社（ドイツ）
産業機械用軸受の生産子会社 資本金 8.9百万ユーロ
- ▶ 個人投資家およびノイベック社社員への株式の売却を合意。

2. 自動車事業 ICE関連製品の生産再編

- ▶ 自動車のEVシフトに伴うICE向け製品の生産再編に関連して
FY24 1Qにて一過性費用を5億円計上。

3. ステアリング事業インド子会社の株式譲渡契約を締結

- ▶ 2024年7月1日に、従来よりパートナーであるRane Holdings Limited
への譲渡契約を締結。

続いて、構造改革等の進捗、取り組みについてご説明をさせていただきます。

5月の決算説明会において、今後必要な構造改革を進めていくことをお伝えしました。

FY24においては50億円程度、FY25には10億円程度の費用をかけ、FY26の年間の効果として90億円の増益効果を見込む構造改革を推進していくとご説明させていただいています。その一環として、ここに三つ挙げています。一つ目は欧州の生産子会社であるノイベック社というドイツにある産業機械用軸受の生産子会社の売却について合意をいたしました。ノイベック社は、Neuwegブランド/デザインの軸受を生産している会社です。1990年にNSKがイギリスのUPIというRHPブランドを持っているベアリング会社を買収した際にNSKグループの一員となりました。以来、運営をしてまいりましたが、NSKの既存事業とのシナジーが限定的であること、さらには欧州におけるコスト上昇もあり、今般売却の合意に至りました。二つ目は、エンジン車関係の製品についての生産再編を進めるというものです。それについて準備中のもも含めて進行しており、FY24第1四半期でその費用の一部として5億円程度の計上をしています。三つ目はステアリング事業です。カーブアウトの方針の下、昨年8月1日にJISとの合併会社を設立しました。それに基づき、インドにつきましては、もともとジョイントベンチャーを組んでいましたので、そのジョイントベンチャー先を含めて最適な形について検討し、交渉を進めてきた結果、従来からジョイントベンチャーのパートナーであるRane Holdings社に、当社が保有するインドのステアリング子会社（Rane NSK Steering Systems）の51%の株式全てを売却することについて合意したものです。

✓組織再編

▷ 持続可能性の観点や、中期経営計画2026の経営課題を推進するために組織再編を実行。

1. 物流子会社の他企業との協業を決定 2024年7月1日

- ▶ NSKロジスティクス株式会社 資本金 90百万円
- ▶ 物流の2024年問題を背景とした、外部環境変化への対応と、持続可能な物流機能の担保およびさらなる成長のため、協業を決定。
- ▶ SBSホールディングス株式会社へ66.61%の株式を売却予定。

2. グループ子会社2社を吸収合併 2024年4月1日

- ▶ NSKネットアンドシステム株式会社 資本金10百万円
→ IT部門における経営資源の集約及び業務の効率化とデジタル活用によるビジネスの変革の加速化を推進。
- ▶ NSK人事サービス株式会社 資本金20百万円
→ NSKグループの人的リソース集約および人事部門の一体化を推進。

最後に組織再編の取組みになります。

中期経営計画を達成していくために各種施策を進めており、そのうちの1つが組織再編です。まず最初に、当社の100%子会社であるNSKロジスティクス（日本の物流子会社）についてSBSホールディングス社と合意をし、当社が保有している100%のうち66.61%の株式を売却することに合意をいたしました。この結果、NSKロジスティクスはSBSの子会社となり、NSKとしては持分法適用会社になる予定です。物流問題2024年が顕在化する中、外部環境の変化への対応や持続可能な物流機能の担保に加え、さらなる発展、成長のために、今般SBSホールディングスとの協業を決めたこととなります。加えてグループ子会社2社の吸収合併を、この4月1日に行いました。2000年だったと思いますが、旧商法の改正等によって会社分割の法整備が整いました。そうした背景をもって、当時NSKは機能部門の分社を進めてまいりましたが、その1つがIT関係のNSKネットアンドシステム、もう一つが人事関係のNSK人事サービスとなります。これらについて、ITに関してはDXを徹底的に進めるという中で、IT部門のリソースの効率的な活用を行うために、吸収合併をすることにいたしました。また、人事サービスにつきましても、人的資本の活用という中で、人事部門を一体化をして進めていく必要があるということで吸収合併をしたものです。

以上が第1四半期の決算、業績予想および構造改革の進捗のご説明となります。
ありがとうございました。

補足資料

- **ロボット用サーボモータ向け
低発塵・低トルクの軸受開発**

- **BKVとNSKのシナジー、
BKV製品の日本市場投入**

- **大型ドローン向け
ガスタービン発電機用軸受開発**

右写真：ガスタービン発電機を搭載した
高ペイロード緊急物資輸送用ドローン
(提供：エアロディベロップジャパン株式会社)



- **基本動定格荷重向上により、計算寿命最大2倍に**

✓ より小さな軸受への置き換えも可能に、お客様の機械の小型化・軽量化に貢献。

- **Webサイト エンジニアリングツールをリニューアル**

✓ 軸受選定からCADデータダウンロードまでをワンストップに。

補足. FY24 1Q実績 事業セグメント別業績



FY23 1Q決算にてステアリング事業を非継続事業へ分類したことに伴い、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。なお、2023年8月1日に設立しましたJISとの合併会社における持分法損益はFY23 2Qより自動車事業のセグメント利益に含めています。

(億円)		FY23実績					通期	FY24実績			FY24予想		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		増減額	増減率	1H	2H	通期	
合計	売上高	1,882	1,984	2,014	2,008	7,889	2,005	+122	+6.5%	3,930	4,270	8,200	
	セグメント利益	38	76	92	81	287	63	+25	+66.1%	90	290	380	
	(対売上高率)	(2.0%)	(3.8%)	(4.6%)	(4.0%)	(3.6%)	(3.2%)			(2.3%)	(6.8%)	(4.6%)	
	営業利益	41	70	82	81	274	59	+17	+42.2%	80	280	360	
	(営業利益率)	(2.2%)	(3.5%)	(4.1%)	(4.0%)	(3.5%)	(2.9%)			(2.0%)	(6.6%)	(4.4%)	
産業機械	売上高	851	859	839	899	3,448	905	+55	+6.4%	1,790	1,990	3,780	
事業	産業機械軸受	729	739	723	774	2,965	776	+47	+6.4%	1,530	1,670	3,200	
	精機製品	122	120	116	125	483	129	+8	+6.3%	260	320	580	
	セグメント利益	23	23	11	23	80	27	+4	+17.4%	40	150	190	
	(対売上高率)	(2.7%)	(2.7%)	(1.3%)	(2.6%)	(2.3%)	(3.0%)			(2.2%)	(7.5%)	(5.0%)	
自動車	売上高	952	1,039	1,080	1,017	4,088	1,005	+53	+5.5%	1,960	2,090	4,050	
事業	セグメント利益	11	46	76	53	186	31	+20	+183.3%	45	135	180	
	(対売上高率)	(1.1%)	(4.4%)	(7.0%)	(5.3%)	(4.5%)	(3.1%)			(2.3%)	(6.5%)	(4.4%)	
その他	売上高	167	160	183	166	677	186	+19	+11.2%	330	350	680	
	営業利益	7	7	5	4	24	8	+2	+22.4%	5	5	10	
	(対売上高率)	(4.1%)	(4.4%)	(3.0%)	(2.5%)	(3.5%)	(4.5%)			(1.5%)	(1.4%)	(1.5%)	
	売上高消去	-87	-75	-88	-75	-325	-91	-4	-	-150	-160	-310	
	その他の営業損益/調整額	1	-6	-10	0	-15	-8	-8	-	-10	-10	-20	

補足. FY24 1Q実績 顧客地域別売上高



FY23 1Q決算にてステアリング事業を非継続事業へ分類したことに伴い、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。なお、2023年8月1日に設立しましたJISとの合併会社における持分法損益はFY23 2Qより自動車事業のセグメント利益に含めています。

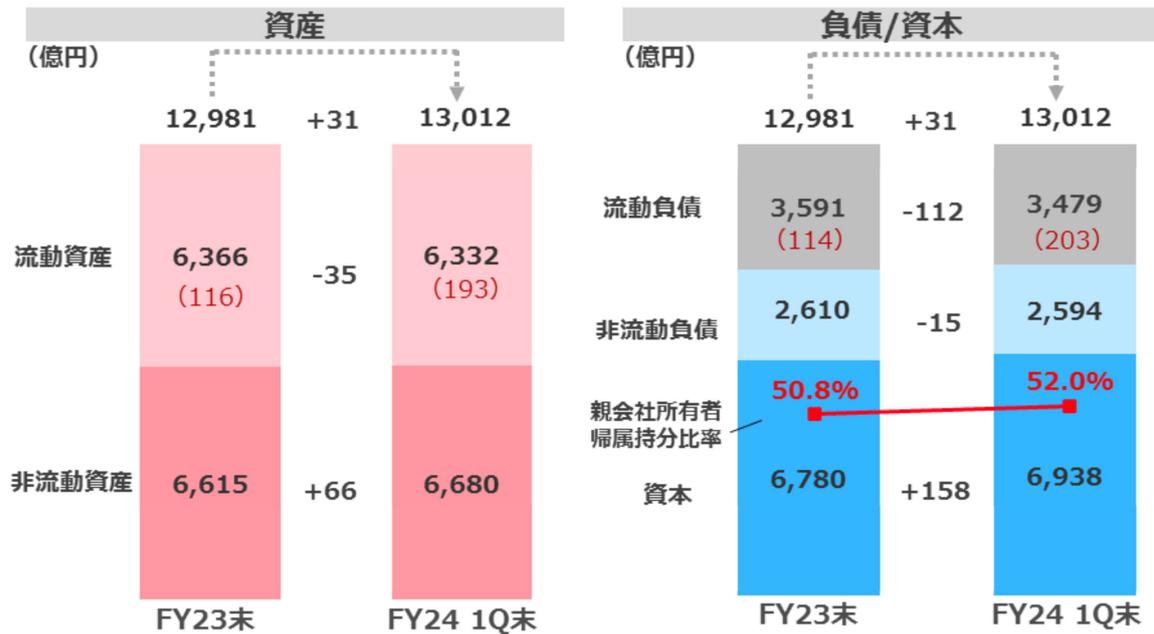
(億円)	FY23					FY24	YoY	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	増減額	増減率
売上高	1,882	1,984	2,014	2,008	7,889	2,005	+122	+6.5%
日本	660	703	705	642	2,711	641	-19	-2.9%
海外合計	1,222	1,281	1,308	1,366	5,178	1,364	+142	+11.6%
(海外比率)	(64.9%)	(64.6%)	(65.0%)	(68.0%)	(65.6%)	(68.0%)		
米州	334	350	351	409	1,444	392	+59	+17.5%
欧州	270	252	259	299	1,081	271	+1	+0.3%
中国	355	395	415	378	1,542	420	+65	+18.2%
その他アジア	264	284	283	280	1,111	281	+18	+6.7%
換算レート								
1USD	137.4	144.6	147.9	148.6	144.6	155.9	+18.5	+13.5%
1EUR	149.5	157.3	159.1	161.3	156.8	167.9	+18.4	+12.3%
1CNY	19.6	19.9	20.4	20.6	20.1	21.5	+1.9	+9.8%

補足. 財政状態



FY23 1Q決算にてステアリング事業を非継続事業へ分類し、「売却目的保有に分類される処分グループに係る資産および負債」を（）内数値に記載しています。なお、上記の資産および負債に関して後日個別譲渡を予定しています。また、2024年7月1日にNSKロジスティックス(株)（以下NLK）の株式を一部譲渡することを決定しました。これに伴いNLKの資産および負債についても（）内数値に含めて記載しており、2024年内の譲渡を予定しています。

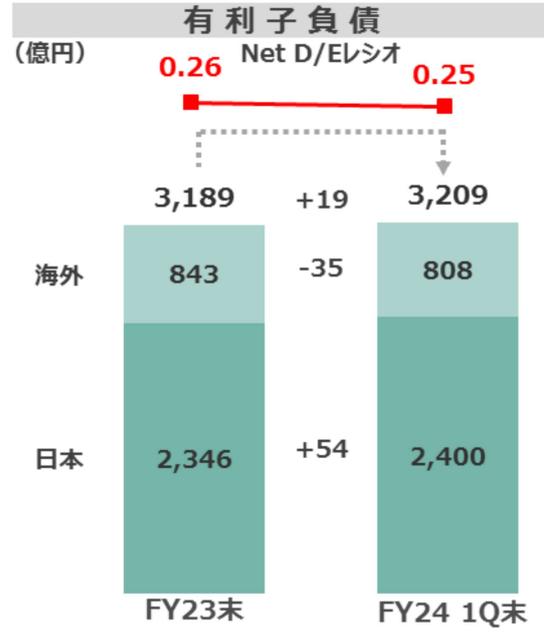
換算レート	FY23末	FY24 1Q末
1USD	151.4	161.1
1EUR	163.3	172.4
1CNY	20.8	22.1



補足. 棚卸資産/有利子負債

FY23 1Q決算にてステアリング事業を非継続事業へ分類したことに伴い、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。

換算レート	FY23末	FY24 1Q末
1USD	151.4	161.1
1EUR	163.3	172.4
1CNY	20.8	22.1



補足. 設備投資額/減価償却費/研究開発費

FY23 1Q決算にてステアリング事業を非継続事業へ分類したことに伴い、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。

(億円)	FY23	FY24	
	通期実績	1Q実績	通期予想
設備投資額	585	123	600
設備投資額 (リース除く)	536	116	550
減価償却費	529	136	540
減価償却費 (リース除く)	475	122	490
研究開発費 (制度決算ベース)	156	38	160
(参考) 技術関連費用	274	65	290

MOTION & CONTROL™

NSK

NSKの企業理念

NSKは、MOTION & CONTROL™を通じ、
円滑で安全な社会に貢献し、
地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、
国を越えた人と人の結びつきを強めます。

NSKビジョン2026

あたらしい動きをつくる。

あらたなライフスタイルを生み出し、笑顔あふれる明日を実現するための、
次の「動き」をつくる。

社会のニーズをいち早く発掘し、世界中の期待を超える、
誰も想像できなかった「動き」をカタチにする。

私たちが未来を動かしていく。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.